



福山平成大学

FDニューズレター No.1



平成 18 年 9 月 21 日発行
福山平成大学
FD 推進委員会
FD ニューズレター
編集部 編集

「FDニューズレター」ついに創刊！

今年度より、新たにFD推進委員会が新設されました。この委員会は主として私たち教職員の授業能力をさらに向上させることを目的としています。委員会では、他大学の先進的な取り組み等を参考としつつ、本学で実行可能で効果があると思われる活動を検討して参りました。その結果、今年度は、次の2点を今年度の当面の活動とすることと致しました。本学、福山平成大学を学生諸氏にとってさらに魅力あるものとするために、委員会も努力を惜しみません。ご協力のほどをお願い申し上げます。

「学生の顔と名前を憶えよう」運動

- ・ 先日、全教職員の皆様に全学生の顔写真（学生番号、名前つき、カラー）のCDを配付いたしました。この顔写真をご活用頂き、できるだけ多く学生の名前を憶えていただきますようお願いいたします。
- ・ そして、教職員には教室内外で学生の名前を呼びながら声をかけるようお願いいたします。
- ・ なお、このCDの内容は個人情報保護法に関わるものを含んでいると考えられますので、その管理に関してはくれぐれもご配慮いただきますようお願いいたします。

「私の授業」発表会

- ・ これは構成員全員の場合で自分の授業について公開し、お互いに授業能力を高めようということを目的としています。
- ・ 内容は授業の目標、授業の概要、教材、授業における重点事項、等自由です。
- ・ 仲間による授業観察（Peer observation）を行います。
観察者は授業者（発表者）が指名します。そして、授業者と観察者が共同で発表します。
- ・ 発表は当面学科単位で行いますが、広く大学全体にも開放致します。多数ご参加頂きますようお願い申し上げます。
- ・ 発表者・発表時間は学科や発表者の自由裁量と致しますが、以下を目安と致します。
発表者 毎回1ないし2人
時間は一人20分
- ・ なお、経営情報学科では、7月20日4時30分から、5103教室にて発表会を行いました。発表者は福井先生・三好先生、それに小篠・島田先生の2組でした。

体になじませる経営統計学応用

経営学部 福井正康

体になじむように

経営情報学科では統計学について「経営統計学基礎」と「経営統計学応用」という2つの授業があります。経営統計学基礎では確率の考え方やデータの集計法、推定・検定の考え方などを学び、今回の対象授業である経営統計学応用ではその基礎をもとに、統計解析ソフトを用いて実際にデータを処理する方法を体験します。

この授業の目的は、アンケート調査などで集めた統計データについて、ある程度その意味を読み取れる力をつけるということです。そのための技術としては、場面に応じた正しい統計手法を選べるのが大切です。統計ソフトを使いますので、理論はそれほど重要ではありません。正しい統計手法を選ぶ訓練は、体になじむまで演習を重ねるといった方法を採用しています。

数学は苦手でも統計はできる

授業を進めて行く上での注意点としては、学生は数学が大の苦手であるということ覚えておくことが重要です。数学による説明はほぼあきらめざるを得ません。また、最初のうちは、表示された検定確率の値などから、統計的な検定結果もなかなか読み取ることができません。さらに、使用する統計ソフトにメニューなどがたくさんあり過ぎるとどれを選ぶか混乱します。この困難な状況で、正規分布以外の場合を扱うノンパラメトリック検定まで解釈できるようにしたいというのが目標です。

ソフトの自作

使用するソフトにも気を使わなければなりません。簡単すぎず、詳細すぎず、このような都合の良いソフトウェアはなかなか見つかりません。定番の統計ソフトでは学生には荷が重いと考えます。そこで開発中であった社会システム分析ソフトに統計処理を加えることにしました。分かり易いメニュー、統計処理の道筋に沿った操作、文章による検定結果の表示などの工夫をして現在の形に仕上げました。



授業 + 演習

授業は説明に30分、問題形式の演習に50分と演習に十分時間を取り、いくつか問題を解くうちに処理の方法が理解できるようになっています。出席カードは演習の解答と引き換えに渡しているため、学生は比較的真面目に取り組んでいるようです。

三好先生のアドバイスに感謝

授業を見学していただいた三好宏先生からは、準備の良さと学生が真面目に取り組んでいる点を評価していただきました。また、アドバイスとして、演習のデータについては実際の調査のものを使うことを勧められました。この点は自分でも重要であると考え、実際の調査データを持っておられる先生との連携なども考えてみたいと思います。三好先生よろしくね。

学生は統計を楽しんでいた！

経営学部 三好 宏

授業の概要

今回の授業は、「5章 2群間の量的データの検定」として、データ解析時、いくつかの検定方法のうちどれを用いればよいのかを理解させるとともに、統計ソフトの操作、ならびにその結果の解釈の仕方を学ばせるというものであった。

授業ではまずプリントが配布され、福井教授自らそこにある例題を、統計ソフトを用いて解いていく。その過程はモニター画面に映し出され、学生はそれを見ながら自分でもデータを入力し、答えを出してみる。そして、用意された3検定の例題等が終了した後は、総合的な問題を各自に取り組みせ、できた者から授業を終えてよいという形をとっていた。

授業の工夫

数学が苦手な学生が多い中で、高度な統計手法を学ばせるという努力は、まさに敬意に値するが、以下の点で工夫が見られたと思う。

例題でまず解答の見本を示す いきなり問題に取り組みせるのではなく、まず見本として、どのように問題を考え統計ソフトを操作すればよいのかを、モニター画面に示しながら説明しているのので、大多数の学生は、難なくこなすことができていた。

できた者から帰らせる 通常、講義時間中に学生に問題をやらそうとしたとき、中にはやらない学生もいる。できた者から帰ってよい(逆に言うことができなければ帰れない)という方法は、学生全員に積極的に問題に取り組もうとする動機づけを生んでいる。

話し方等 説明は大きな声で、しかもゆっくりとわかりやすい言葉づかいでなされており、またパソコン操作も前の操作に戻ったりしながら、学生への配慮が伺われた。

今後の課題

この授業をさらによくするためには、私としては次の点が課題ではないかと感じられた。

授業が、説明 例題 見本 各自演習と、非常にシステム化されており、またパソコンソフトもよくできていることから、パソコンにデータを手順どおりに打ち込めばそれで解答が導き出されるようになっている。はたして学生は統計の意味をどの程度理解し、操作できているのだろうか。かなり怪しいと思われる(もちろんそれはかなり無理難題であるのは承知している)。たとえば、今回では少なかった発問を、説明の合間にもっと多く取り入れたりして、学生の理解度を測りながら、説明の仕方を適宜変えていくというスタイルもあろう(ただし、時間配分や授業の進み度合いに問題が生じると思われるが)。今回の例題や問題には、多少経営的な内容のものも見受けられた。しかし、大部分のデータは体重の差であったり、単なる数字の集合であったりした。やはり、『経営統計学応用』という授業であるので、もう少し経営的な内容でデータ分析をさせる必要があると思われる。そのためには、経営系の教員が研究調査したデータを利用するなどの連携が必要だろう。時にはその統計分析の結果を、その経営系教員が解説したりすれば、生きた『経営統計学応用』の授業として、学生もなぜ統計が必要か、どんなときに役に立つのかを肌で感じるができるように思われる。

彼らは情報化時代の申し子でした

経営学部

共通教育担当 小篠敏明

新しい挑戦

赴任1年目の昨年度。「私語が多い」「90分の講義は続かない」「英語学習に興味を示さない」等々。私が直面した問題は、大学全入の今日、特にめずらしいことではないでしょう。とはいえ、問題の解決となると、ことは簡単ではありません。どのような方法が効果的なのか。私はこれを一種のアクション・リサーチと考えました。そして、解決するための仮説を考えました。

学生とのラポール

まず、目標を「英語学習が嫌いでないようにする」ことにしました。気持の問題が一番だと考えたからです。次に、「興味のある教材を作る」ことを考えました。授業の方法も、「多様な学習形態」を採用し、変化を持たせました。また、e-learningを採用し、若者に受け入れられやすい仕組みも工夫しました。そのほか、「到達可能なタスク」を工夫したり、「1対1の面談方式」や「音読」なども取り入れました。いずれも、高校までの授業とは違った、新しい方法をねらったものでした。

中でも、特に私が心を砕いたのは、学生との信頼関係 rapport の構築でした。私自身の気持をわかってもらいたくて、授業開始5分前には教室へ着いていました。教室外でもできるだけ学生に声をかけるようにしました。

e-learning を導入

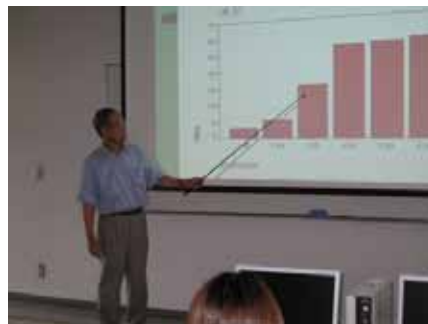
授業では3種類の教材を準備しました。一つは自主教材で、「地域と自分の大学を英語で発信する」ことを目的としたものでした。そして、これをe-learningと結びつけました。第3はマンガ『意地悪ばあさん』英語版でした。これを通して、学生諸君に「活きのいい英語」を学んでほしいと思ったからです。

授業では、講義、教師との面談方式、コンピュータ学習、個人練習など、変化を持たせるよう心がけました。中でも、私と学生ひとりひとりの面談方式、それに、e-learningを授業の中心に据えました。

授業ではささやかな発見がありました。学生諸君は予想以上にコンピュータ学習を好むことを知りました。これは私の予想以上でした。彼らは情報化時代の申し子でした。また、彼らは暗誦のように到達可能なタスクには意外とやる気を示しました。課題へ取り組む彼らの姿はとても気持ちのいいものでした。一番感動したのは、学生が見せる純真な心でした。これは本学一番の自慢だと思います。

新たな課題

他方、いくつかの新たな課題も見つかりました。最大の問題は学力差の問題でした。現在の授業システムは優秀な学生への配慮が欠けるものでした。これを改善するには、授業に難しい教材も採用し、プログラムを複線化することなどがが必要です。喫緊の課題だと承知しています。



「学生さんを好きになることから始めましょう！」

福祉健康学部
共通教育担当 島田将夫

学生さんを好きになることから始めましょう！

“(すべての)学生さんを好きになることから始めましょう！”小篠敏明先生が「私の授業発表会」にてご自身の授業の要諦をご説明下さる中でさらりとおっしゃられたこのお言葉に私は天啓に打たれたような衝撃を受けました。至極あたりまえのことなのに、いままでに気づくことすらなく何年も授業を担当し続けた私自身を深く恥じ入ることとなりました。もちろん、私個人の見解ではありますが、小篠先生の授業は、先生ご自身のこのお言葉に集約できると確信にいたるものでありました。

明るく生き生きした学生さんたち

「なんと明るく活き活きとした学生さんたちに満ちあふれた教室！」、それがとても強い第一印象でした。7月20日の「私の授業発表会」に先立ち、小篠先生の実際の授業を私も受講させていただいたのは、6月28日水曜日の3時限、外国語科目の「英語A」の授業でした。教室が図書館3階の情報演習室というのも驚きでしたが、一人一人の学生さんがもれなく、とてもとても楽しそうに、自らの意思で課題にひたむきに取り組んでいる姿、そのクラス全体の巨大なエネルギーに圧倒されてしまいました。「英語A」は必修科目ですから、英語を履修したくはなかった学生さんも数多くいる筈、なのにです。

クラスから放出される巨大エネルギー

もちろん、クラス全体から放たれる巨大なエネルギーの中心で、学生さん一人一人のそれぞれの活動をオーケストラの名人指揮者のように巧みにコントロールされて、学生さん各々の持ち味を最大に引き出しておられたのは小篠先生でした。教科書、プリント、パソコン・ゲーム(プログラム)、マンガ、などなどの全ての教材・課題が、先生ご自身が本学の学生さんのために心を込めて工夫を凝らされ非常に丁寧に作成・準備されたものでした。そのどれもが、誰でも思わず取り組んでみたくなる教材、そして取り組んでみればさらに前に進みたくなる教材なのです。ITの利点を最大限に活用されているのは言うまでもありません。クラス全体で基本を押さえた後、思い思いに様々な課題に取り組む学生さんの一人一人をいつもニコニコと心温かく励ましておられる小篠先生がとても印象的でした。

無類の学生さん好き

世界の第一線でご活躍なされている学者・教育者として、そして語学の達人としても著名な小篠先生ですが、先生の学生さん好きも無類のものに違いありません。その証拠に、小篠先生にたいへん親しみを感じて全幅の信頼を寄せている学生さん一人一人の姿が教室に満ちあふれているではありませんか！

思い返せばFD委員会の事業の「学生の名前を覚えようキャンペーン」を主導なされたのは小篠先生ご自身ですが、先生は授業中も常に、そして頻繁に学生さん一人一人に名前を声にかけていらっしゃいました。便宜に甘えて学生さんを学生番号で扱っていては、学生さんを囚人扱いしているのと同じであること、ここでも目から鱗の落ちる思いでした。“学生さんを好きになる”という指導にたずさわる者のあたりまえ、小篠先生の授業で私は大切さこの上ないお教えをいただきました。

させてみて ほめてやらねば

福祉健康学部 大中 章

やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ 古歌

一斉授業 + 個別指導

福井先生と小篠先生の授業で、最も印象に残ったのは、共に、授業時間すべてを講義に充てるのではなく、講義時間 30 分と演習時間 60 分とで授業を構成なさっている点、そして、演習時間には、演習の成果をひとりひとり確認することによって、個別指導を丁寧になさっている点、のふたつです。授業と言えば多数の学生を相手にした一斉授業、授業と言えば「言って聞かせて」一辺倒の講義、と思っていた私には、「コロンブスの卵」的な驚きがありました。

社会福祉の授業に取り入れるとすれば

仮にこの方法を社会福祉の授業に取り入れるとすれば、援助技術の習得を目的とする科目が適しているように思います。統計手法の使い方を身につけたり、英語の音読ができるようになる、というのと同様、社会福祉の援助技術も、知的技能にあたります。スキルの習得には、反復練習が欠かせません。援助技術のさまざまな構成要素を整理したうえで、ひとつひとつがしっかり身に付くように、練習課題を与えていく。さまざまな事例を提示し、援助技術の原則をどのように適用すべきかを考えさせる。教授法として、検討してみる価値はあるように思いました。

使うこと優先で

社会福祉の学習課題には、言語情報の習得、つまり必要事項を覚える、という課題もあり、それもかなりの部分を占めます。言語情報の習得と知的技能の習得は、質が異なりますから、福井先生や小篠先生の今回の方法を、そのまま活用するわけにはいかないかもしれません。

ただ、使っているうちに覚える、ということは、よくあるように思います。覚えなければならない必要事項も、福祉サービスの利用者の支援に役立ってこそ意味がある。「言って聞かせて」覚えさせる講義でも、実践課題を提示し、その解決を考える過程で、必要な知識を整理する。覚えること優先ではなく、使うこと優先で学ばせる。このようなやり方は意味があるかもしれません。このように考えると、「言って聞かせて」一辺倒で終わるのではなく、福井先生や小篠先生のように、「させてみて」「ほめてやらねば」の時間をたっぷり取る、というやり方は、使えそうな気もしてきます。

情報公開

今回の企画は、私にとっては、とても刺激的でした。会議時間が重なるなどの事情で、参加できない先生がたが多かったのは、惜しいと思いました。リナックスがウィンドウズを凌ごうか、という時代。企業秘密をかたくなに守っているより、情報公開し、みんなで力を合わせて考えれば、もっと成果が得られるのではないかと思います。今回の企画は、とても意義深いものだと思います。

最後になりましたが、ご発表くださった福井先生、小篠先生、ありがとうございました。

FD 推進委員会活動記録

平成18年5月11日	平成18年度第1回委員会 議題 1) 1年間の活動について 2) その他
平成18年6月8日	平成18年度第2回委員会 議題 1) 1年間の活動について 2) その他
平成18年7月13日	全学教授会報告 報告事項 1) 「学生の顔と名前を覚えよう」運動 2) 「私の授業」発表会
平成18年7月13日	平成18年度第3回委員会 議題 1) 年間活動について 2) その他
平成18年7月20日	経営情報学科「私の授業」発表会 発表者 (1) 授業報告者 福井正康 参観報告者 三好 宏 (2) 授業報告者 小篠敏明 参観報告者 島田将夫
平成18年9月21日	FD ニュースレター創刊号発行

編集後記

FD ニュースレター創刊号、お楽しみいただけましたでしょうか。「私の授業」発表会の記事には、日々の授業実践の参考になるような内容が少なからず含まれているようにも思います。ご活用いただければ幸甚に存じます。委員会としては、これから授業改善に役立つような記事を満載すべく精一杯の努力を続けていきたいと存じます。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本ニュースレターの作成に当たりましては、コンピュータ準備室の細川光浩先生に大変お世話になりました。全体のレイアウトはもちろんのこと、表題も細川先生の力作です。細川先生には厚くお礼申し上げます。(T.O.)